

第2部 ボランティア・市民活動の推進

I 令和7年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

市民活動支援センター（以下、センターという）は、「自立した市民社会の創造」をミッションに、「2023～2027 市民活動支援センター中長期運営方針」（以下、「中長期運営方針」という）に基づき、中間支援組織に求められる役割や機能を果たすべく、事業計画に定める各種事業を実施しました。

「中長期運営方針」3年目の令和7年度は、市民活動支援センター運営委員会にて5本の柱に沿って、前期2か年度の間隔振り返しを行い、各項目の進捗状況や今後の課題等について協議しました。下半期以降は、柱③「えんがわファンドによる寄付文化の醸成」により注力する方針を確認し、市民交流事業「えんがわフェスタ」や地域人材養成講座等において、えんがわファンドや寄付文化、ファンレイジング等を反映した企画を実施しました。

令和8年3月に歴代の運営委員や関係者40人以上が集い、市民活動支援センター開設20周年記念企画「えんがわミーティング“温故知新”」を開催しました。20年の歩みを振り返るとともに、これからの調布の市民活動やセンターに必要なアクションをともに考えました。また、市民活動団体及びセンター利用者へのアンケート調査の実施等、人のつながりとぬくもりが感じられる「まちのえんがわ」を市民と共に創るために、市民の声を聴き、考える機会をつくりました。

第2 重点項目の総括

1 中長期運営方針の5本の柱に対応したセンター運営

- ① 「市民の地域参加の推進」については、「サマーボランティア」、「出前講座」等のボランティア学習プログラムや「えんがわフェスタ」「まち活フェスタ」の市民交流事業、ちょうふチャリティーウォーク等の各事業に取り組みました。今後はより市民参加を広げるための創意工夫が課題です。
- ② 「パートナーシップの強化」については、センターはもとより各ブランチにおいて、子どもや防犯・交通安全、災害、高齢者の健康づくりや障がい者の社会参加、孤立防止等様々なテーマやキーワードで他機関と連携を図りながら事業を進めました。企業や民間団体等多主体連携や協働のネットワークづくりが今後の課題です。
- ③ 「えんがわファンドによる寄付文化の醸成」については、「ちょうふチャリティーウォーク」や「えんがわフェスタ」、広報誌「えんがわだより」等を通じて普及・啓発に努めました。えんがわファンド助成団体の自立性や信頼性向上に向けた伴走支援や寄付文化の醸成に向けたセンターとしての取組をいかに進めていくかも大切な課題です。
- ④ 「居場所やサードプレイスの周知と推進」については、居場所づくりに取り組む市民活動団体を「えんがわだより」やセンターホームページでの広報、「えんがわファンド」での活動助成等を通じて周知と推進に努めました。

- ⑤ 「災害時に備えた支え合いの醸成」については、災害ボランティアコーディネーター養成講座や市民団体との共催による災害ボランティアセンターICT活用訓練、災害時要配慮者への理解を深める講座を開催しました。学んだことを活かした訓練や多様な災害時要配慮者の理解を深める取組の継続が課題です。

Ⅱ 個別事業

第1 センター及びボランティアコーナー（ブランチ）の運営

番号	事業名	財源			
(1)	市民活動支援センターの受託・運営	自主	補助	委託	事業
				市	○

番号	事業名	財源			
(2)	ボランティア活動推進	自主	補助	委託	事業
		会寄雑 基	市		○

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

- 令和7年度から第12期運営委員の任期が始まり、6人の運営委員が新たに就任し17人体制となった。
- 令和4年度に策定した「2023～2027 中長期運営方針」に沿いながら、令和7年度は全8回の運営委員会を開催し議論を行った。令和7年度は現中長期運営方針の3年目にあたり、前半2か年度の振り返り等も行った。
- 市民活動支援センター運営委員とボランティア・市民活動推進課職員の合同研修を行った。また、他団体・機関等からの見学受入も行った（詳細は「第7 職員の派遣・研修」を参照）。

実績等

(1) 市民活動支援センター運営委員会 任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

氏 名	選出区分	主な活動、所属等
水田 征吾（委員長）	ボランティア	個人ボランティア
浜本 雅樹（副委員長）	市民公募	
石正 房江（副委員長）	市民公募	
安藤 雄太	学識経験者	
村上 むつ子	市民活動団体	Global 調布！
平澤 和哉	市民活動団体	NPO 法人ちょうふこどもネット
石井 洋子	市民公募	
毛利 勝	ボランティア	個人ボランティア
ニンファジャヤマーンナ	ボランティア	個人ボランティア
小松 明日香	ボランティア	個人ボランティア

第2部 ボランティア・市民活動の推進

増田 健治	企業・労働組合	
大槻 昌美	企業・労働組合	非営利型株式会社 Polaris
児山 宣孝	ボランティア	個人ボランティア
松永 佳子	関係機関	東京慈恵会医科大学（医学部看護学科講師）
吉田 真也	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
佐藤 晋太郎	行政関係	調布市生活文化スポーツ部協働推進課長補佐
田島 誠	社協関係	市民活動支援センター長

(2) 令和7年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月19日	【審議事項】 第12期市民活動支援センター運営委員会委員長の選任 社会福祉法人調布市社会福祉協議会理事候補者の推薦 【承認事項】 令和6年度事業報告（案）・資金収支決算報告（案）の承認手順確認 【報告事項】 センター運営報告（事故報告・新年度職員体制ほか） 令和7年度えんがわファンド申し込み状況 令和7年度センター運営委員会の開催日程等
第2回	5月15日	【承認事項】 令和6年度事業報告（案）の承認 令和6年度資金収支決算報告（案）の承認 【報告事項】 中長期運営方針・7年度事業計画について説明 【協議事項】 中長期運営方針の中間評価について
第3回	7月13日	【報告事項】 市民活動助成事業「えんがわファンド」報告 メールボックス・ロッカーの更新状況 サマーボランティア進捗状況 【協議事項】 中長期運営方針の中間評価 【共有事項】 市民活動支援センター職員研修実施
第4回	9月19日	【報告事項】 市民活動支援センター職員・運営委員合同研修報告 各事業進捗報告 【協議事項】 市民交流事業えんがわフェスタ2026について 【共有事項】 東京ボランティア・市民活動センター新任職員研修生受入について

第5回	11月11日	【報告事項】 各事業進捗報告 調布まち活フェスタ開催報告 ちょうふチャリティーウォーク開催報告 八丈島台風災害支援金街頭募金活動報告 災害ボランティアコーディネーター養成講座開催報告 調布市個人情報を取り扱う契約業務に関する実地検査報告 【協議事項】 市民交流事業えんがわフェスタ 2026 について (1)フェスタ部会報告 (2)フェスタ企画案 (3)今後のスケジュール
第6回	12月17日	【報告事項】 各事業進捗報告 センターホームページ情報登録団体アンケート結果報告 市民活動助成事業「えんがわファンド」進捗報告 えんがわファンド助成先団体の活動状況、今後の予定 【協議事項】 19:20～19:50 (30M) 市民交流事業えんがわフェスタ 2026 について (1)フェスタ部会報告 (2)チラシ案検討 (3)今後のスケジュール確認 【共有事項】 市民活動支援センター開設 20 周年記念企画について
第7回	1月16日	【報告事項】 各事業進捗報告 えんがわファンド助成先団体 1 団体からの助成金返還申請 センター利用者アンケート調査 【協議事項】 19:40～20:50 (70M) 市民交流事業えんがわフェスタ 2026 について (1)フェスタ部会報告 (2)スケジュール (3)役割分担 市民活動支援センター令和 8 年度事業計画（案）について 【共有事項】 センター開設 20 周年記念企画について 東京ボランティア・市民活動センター視察受入
第8回	2月18日	【報告事項】 各事業進捗報告 えんがわファンド助成先団体 1 団体からの助成金返還経過 市民活動支援センター運営要綱の一部改正

	えんがわファンド紹介動画について 【協議事項】 市民交流事業えんがわフェスタ 2026 について (1)フェスタ部会報告 (2)当日の日程、進行、役割分担等の最終確認 市民活動支援センター令和8年度事業計画（案）について 市民活動支援センター令和8年度収支予算（案）について 【共有事項】 市民活動支援センター開設 20 周年記念企画について 東京ボランティア・市民活動センター視察受入報告
--	---

分析・課題

- 運営委員会では、市民活動支援センターの様々な事業について意見を交わすことができた。その議論を実際の運営にどう反映させていくかが課題である。
- 運営委員が限られた時間の中でより議論を深められるよう、情報共有や会議の運営を工夫したい。

2 市民活動支援センター20周年記念企画「えんがわミーティング“温故知新”～歴代運営委員・関係者の語り合い～」の開催

結果の概要

- 市民活動支援センター開設 20 年を記念し、これまでのセンターの歩みを振り返り、これからの調布の市民活動やセンターのアクションについて歴代の運営委員や関係者とともに考え、今後新旧運営委員や関係者がつながりあいながら、アクションを起こすきっかけをつくることを目的に、3月7日に記念イベントを開催した。

実績等

名 称	えんがわミーティング“温故知新”～歴代運営委員・関係者の語り合い～
目 的	・これまでのセンターの歩みを振り返り、これからの調布の市民活動やセンターのアクションについて歴代の運営委員や関係者とともに考える。 ・新旧運営委員がつながりあい、今後のアクションをともに起こすきっかけをつくる。
日 時	令和8年3月7日 13時30分～16時30分
会 場	市民プラザあくろす 2階市民活動支援センター
参加者数	42人
内 容	・第1部：センター20年の歩みを振り返る 20年を5年単位で第1ステージから第4ステージに分け、各ステージで活動した運営委員・関係者が当時のエピソードや大切にしていた思いを語った。 ・第2部：今後の調布の市民活動やセンターのアクションを考える 参加者が4～5人でグループに分かれて、ワールドカフェ方式で意見やアイデアを出しあい、挙がった意見やアイデアを全体で共有した。

主 催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター歴代運営委員有志
-----	------------	------	--------------------

分析・課題

- このイベントで寄せられた歴代運営委員や関係者の声や思いをいかに今後のセンター運営に反映させていけるか。次期中長期運営方針の策定につなげていきたい。
- この機会を通じて出会った新旧運営委員や関係者のつながりを大切に、センターから主催事業や各種情報発信を行う等つながり続けるアクションを継続する。

3 市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

- 2月1日～2月28日 利用者アンケートを実施 293件回答
- 3月24日、3月26日 利用者アンケート報告、避難経路確認 2日間で15人が参加した。

分析・課題

- 駅近で利便性も高く、入りやすい雰囲気と感じている方が多い。ここを使う理由として、地域の情報を得ることや、学習に適した環境との意見があった。今後は、団体同士の交流を後押しすることで、良い効果が生まれるよう、つながりを支援していく必要がある。避難訓練については、避難経路を確認し、災害時に備えた。

4 市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で支援する「えんがわファンド」の原資として活用した。

実績等

加入口数	令和7年度	令和6年度	令和5年度
一口／3,000円	71口	69口	86口
	215,000円	207,000円	259,000円

サポーター 会員数	令和7年度 実数（人）	令和6年度 実数（人）	令和5年度 実数（人）
団体	36	32	38
個人	16	21	21
匿名	0	0	0

新規・継続内訳	令和7年度 実数（人）	令和6年度 実数（人）	令和5年度 実数（人）
新規サポーター	5	1	2
継続サポーター	47	52	57
匿名	0	0	0
合計	52	53	59

分析・課題

- 令和6年度との比較で会員数1減、加入口数は2口増となった。会員の内訳は、団体数が新規4増、個人数が5減となっている。
- 令和元年度の121口総額363,000円をピークに、令和2年度以降会員数減少傾向が続いている（令和5年度のみ4人増）。会員の継続率を高めるため、定期的にサポーター会員へ支援への感謝のメッセージやサポーター会費がどう役立っているか等の情報提供に努めたが、継続サポーター減少の傾向が続いており、支援者とのコミュニケーションをさらに深める必要がある。
- サポーター会員の減少傾向が続く一方、えんがわファンド指定寄付金は、前年度より102,540円増加した。しかし、令和4・5年度と比べると微減の状況にあり、ファンドレイジングの取組は継続的な課題である。

5 市民交流事業の実施

(1) えんがわフェスタ 2026 の開催

結果の概要

- 市民活動支援センター運営委員会及びえんがわフェスタ部会にて協議し、イベントを実施した。

実績等

名 称	えんがわフェスタ 2026 ～Meet your favorites in Chofu 見つかる！私の『推し活』～		
目 的	地域や社会の課題解決に向けた仲間づくり		
日 時	令和8年2月28日 10時～17時		
会 場	市民プラザあくろす 2階市民活動支援センター・市民プラザあくろす会議室1		
参加者数	100人		
内 容	・ 午前の部 えんがわフェスタ助成団体のブース出展、寄付に関するミニ学習会 ・ 午後の部「えんがわファンド活動報告会」 開会セレモニー（オープニング演奏「調布さくらウィンドオーケストラ」） 令和7年度助成団体の活動成果発表（13団体） 参加者交流会、クロージング		
主 催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

分析・課題

- センター中長期方針 2023-2027 の柱2「パートナーシップの強化」、柱3「えんがわファンドによる寄付文化の醸成」の取り組みの1つとして開催した。
- 令和7年度助成団体のほか、過年度に助成した複数団体にも参加を促し、年度や分野を横断した取り組みとすることができた。参加者より、団体間の新たな繋がりが生まれ、名刺交換や協働のきっかけとなった点が非常に良かったと評価された。
- 一般市民の参加が少なく、関係者中心の内向きのイベントになった側面が懸念され、広報チラシの文字が多く、一目で魅力が伝わりにくい印象を受けたことが理由に挙げられており、改善を検討する。

(2) 第12回調布まち活フェスタ

結果の概要

- 調布市制施行70周年を祝し、開催日を市制施行イベントの開催時期に合わせ、秋に開催した。
- 市民・行政・センターが協働により開催し、イベント内では、市の今昔クイズ、スローガンに掲げた「未来」に向けたメッセージを発信するステージ、出店団体を巡回するスタンプラリーなどが実施した。尚、荒天の影響で一部ステージ内容を中止した。

実績等 <第12回調布まち活フェスタ・当日>

開催日	令和7年10月19日 10時～15時
会場	調布市市民プラザあくろす館内（2階・3階）、国領駅前広場
来場者数	約800人
参加団体数	24団体
協賛企業	ボーイスカウト第3団、フットの会 ※順不同
実行委員	19人
主催	第12回調布まち活フェスタ実行委員会
共催	調布市（生活・スポーツ文化部 協働推進課） 社会福祉法人調布市社会福祉協議会（市民活動支援センター）
目的	調布市内の市民活動の発展・活性化を図ることを目的に相互に交流や協働を育むこと。活動紹介や普及啓発、協力者やメンバーを募るといった周知活動に資すること。市民参加による「まちづくり」、「街のにぎわいづくり」を推進すること。
実行委員会	7回開催
出展者会議	3回開催

分析・課題

- 調布市制70周年を祝賀することを1つのテーマに定め、10月開催とした。本イベントの前後に開催した他団体の活動においてもPRを行い、イベント同士の相乗効果が持てたことが良かった。
- 出店者会議を全3回としたことで、説明会、振り返りに加え、団体同士の交流・親睦に時間を持つことができた。本イベント終了後に別活動においても出展団体同士の交流が持たれている。
- 周年行事に先駆けたイベントにするため、例年と比較して半分の準備期間で開催となり、運営面で困難な場面も見られた。市民活動の活性化を実現するための事業設計の見直しが課題である。

6 えんがわ文庫の運用

結果の概要

○令和3年11月1日のオープンから4周年を迎え、認知度が向上している。また、えんがわ文庫の利用を目的とした来館者も増えている。

○棚主の活性化を目的とし、既存棚主の継続手続きに合わせ、新規の棚主募集を行った。生活状況の変化などを理由に本棚を返却した棚主もいたが、現在は31人の棚主が活動している。

実績等

○えんがわ文庫棚主交流会を月1回程度開催し、えんがわ文庫の活性化や棚主の交流促進について意見を出し合った。

○棚主主催のイベントを開催し、えんがわ文庫を拠点とした地域住民との交流に取り組んだ。

○有志棚主が、まち活フェスタでイベントを行った。

タイトル	実施回数	開催日時
親子の英語絵本おはなし会	2回	6月28日、10月25日、
本の楽しみ	5回	6月8日、10月27日、11月27日、 12月21日、1月23日

分析・課題

○継続的に棚主交流会を開催し、棚主同士がアイデアを出しあった。えんがわ文庫に主体的に関わる棚主が増え、交流会時には、活発な意見交換が行われた。今後も創意工夫した活動につながるよう、後押ししていきたい。

7 ボランティアコーナー（ランチ）の運営

結果の概要

○身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。

○地域の方々による運営の野ヶ谷の郷を含め7拠点のランチを運営しており、小島町コーナー（月～金）、染地コーナー（火～土）の2拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、西部コーナー、野ヶ谷の郷の5拠点が週3日（火、木、土）開所となっている。

(1) 小島町コーナー

実績等

① 小島町コーナーの運営

項目	回数	参加人数	内容
ボランティア活動室の貸出	随時		ボランティア団体の活動拠点として貸し出している。また、活動に必要な物品の保管場所として棚、メールボックスも貸し出している。

ボランティア保険の受付、取りまとめ	随時		ボランティア保険への加入促進の呼びかけと、加入手続きの事務を取り扱った。ボランティア保険は延べ4,008人、行事保険は延べ11,826人が加入。
使用済み切手等販売、売上報告の取りまとめ	1回/年		使用済みの切手やカード類を回収し、個人または各ボランティア団体に整理してもらい、業者に買い取ってもらう。それ以外にも、外国コイン、書き損じはがきの回収も行っている。その売り上げは、「えんがわファンド」の原資となり、令和7年度は52,800円を売り上げた。
無線LANスポット運営	随時	17人	総合福祉センター1階2階の全域で利用できるよう、無線LANスポットエリアを設置している。また、あくろす2階・3階共通のWifi導入に伴いSSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線LANを利用している。セキュリティ上、利用者は登録制にし、1年に1回パスワードを変更。
福祉機器の貸出	随時		研修等のために、車いす、高齢者疑似体験セット等の福祉機器を貸出。

② 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティア活動室利用 団体会議	1回/年	18団体 20人	利用ルール説明、定例利用日時枠の確認と棚等の希望調整を行った。団体間交流の場を図った。

③ 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
にじいろハート	不定期	—	音楽演奏ボランティア団体を紹介
DEMAE 調布	1回/月	約30人 /1回	視覚や聴覚に障がいがあっても、映画鑑賞が楽しめるようなバリアフリー映画の体験会を、月1回開催。会場の確保などを支援。

④ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
出前講座 (小中学生対象)	16回/年	991人 (延べ)	障がいのある方との出会いとコミュニケーション、援助のボランティア体験や障がいの模擬体験を実施。
市・職員研修(タソワッチング セミナー)	2回/年	15人 /1回	市職員として5～6年目の職員を対象とした研修を支援。車いすやアイマスク装着など、疑似体験をしたり、令和7年度からは、聴覚障がいの方とのコミュニケーションとして、庁内窓口対応の研修を取り込み、公共施設等の利便性、

			安全性について確認。
スマホ交流会の開催	1回/月	約15人 /1回	小島町、布田近隣に在住の高齢者を中心に、災害時にも困らない様スマートフォン操作に慣れる事、近隣住民同士の交流のために、定例で交流会を開催。毎回地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、ボランティアと連携を取り企画。

⑤ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
調布市福祉まつり	1回/年		ボランティア活動紹介ブースを設けて、切手整理活動やえんがわファンドの事業紹介を行った。

結果の概要

- 小島町コーナーが運営するボランティア活動室の貸出は、ボランティア団体の活動に欠かせないものとなっている。
- ボランティアの普及啓発を目的に、調布市福祉まつりでのブース出展や染地コーナー・市民活動支援センターと合同でボランティア説明会を開催した。

分析・課題

- 総合福祉センター内に設置しているボランティアコーナーの特性を活かして、各部署や関係機関との連携や協力関係を深めながらボランティアコーディネートを行っていききたい。

(2) 菊野台コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティアガイダンス	2回/年	約1人	活動者へのインタビューを動画で流すなど新たな試みを行ったが、参加者が少なかった。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
菊野台折り紙クラブ	1回/月	約10人 /1回	高齢者団体として地域福祉センターに定期利用団体として登録する同団体の取り組みを年齢にかかわらず、参加が可能なひだまりサロンの活動となるよう支援をした。
菊野台合唱の会	1回/月	約20人 /1回	活動内容や講師といった共通の性質を持ち、別の福祉圏域で活動をする「緑ヶ丘合唱の会」との交流会開催のマッチングをした。
スマホ de サロン	2回/月	約18人	スマートフォンの操作にまつわる相談をき

		/1 回	かけに自身の健康や家族の事柄など、多様な相談内容に対応ができるよう、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携し、活動を行うことで、ボランティア・参加者双方の不安を解消するよう努めた。
琴望会（野菊）	5 回/月	約 4 人/1 回	代表の「参加者を増やしたい」という希望・相談に寄り添い、市報への掲載、体験会の提案・広報物作成、周知といった伴走支援を行った。参加者が増えたことで、活動の継続をすることができた。

③ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
リハビリのプロが教える歩行と認知症予防に役立つ運動プログラムと計測会	1 回/年	30 人	地域包括支援センター至誠しばさきと共催し、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に、高齢者に向けた運動プログラムの講座を開催した。
介護予防教室	1 回/年	30 人	地域の課題や実状に則した内容で開催することを目的に、地域包括支援センター至誠しばさき主催事業に打ち合わせ段階から参画した。会場を菊野台地域福祉センターにすることで、法人や菊野台コーナーの役割についても支援者・参加者に周知する機会となった。
上ノ原まちづくりの会（地区協議会）ボランティア交流会	1 回/年	約 50 人	「上ノ原まちづくりの会」ボランティア、関係機関が互いに交流を深め、継続して円滑な活動が行えるよう努めた。
上ノ原まちづくりの会（地区協議会）定期総会	1 回/年	約 50 人	地域活動においても主要な役割を担っている委員が多いことから、コーナーやコーディネーターの役割を周知する機会に繋げるとともに地区協議会の役割を再認識した。
スマホの教え方講座	1 回/年	10 人	調布ゆうあい福祉公社が行う、公社会員を対象としたスマートフォン相談会に協力する会員、ボランティア向け講座に参加した。情報交換の機会となった。

④ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
小地域交流事業「菊野台地区地域のつどい」	1 回/年	約 250 人	舞台発表、食料品販売の他、近隣エリアの地域包括支援センター3 機関による相談コーナー、「スマホ de サロン」ボランティアによるスマートフォン相談会を行い、地域住民に法人や菊野台コーナーを親しみや共感を得られる機会

			になるよう努めた。
菊野台ウォーキングの会	2回/年	約10人	地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携し、高齢者の交流と健康維持のため、カニ山、深大寺などのウォーキングを行った。
ウォーキングで地域の魅力を再発見	1回/年	約50人	「菊野台ウォーキングの会」を土台に、地域包括支援センター至誠しばさき、有料老人ホームグランダ深大寺、調布城山保育園の園児が参加し、多世代にわたる地域交流を行った。
フレイル予防体操教室	1回/年	17人	地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携・協働し、地域ニーズの充足に向け、新たな地域資源の創出を目指し、音楽を使用したリズム運動の体験会を開催した。

⑤ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
地域連携会議	4回/年	約8人/1回	地域包括支援センター至誠しばさき、調布ゆうあい福祉公社、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員による情報共有会議に参加した。

結果の概要

- 菊野台地域福祉センター内で活動する複数の団体に、地域住民が楽しみながら参加し、充実した活動と交流ができるよう継続して支援した。
- 社協内連携については、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に講座や新たな団体の立ち上げなどに取り組んだ。
- 会議への参加を通じて関係機関と情報を共有し、講座の開催や課題の解決に連携して取り組むことができた。

分析・課題

- ボランティアガイダンスの参加者が少なくなっている。他のコーディネーターとも連携して、興味を持ってもらえる内容となるよう検討していきたい。

(3) 富士見コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
高齢者の安全安心な暮らしを考えるための講座～ALSOK 社会貢献活動『ALSOK ほっとライフ講座』～	1回/年	約23人 /1回	富士見コーナーが主体となり立案を行い、ALSOK 株式会社多摩支社府中営業所と協働し、地域住民向け講座を実施した。同社が行う初の地域貢献活動への支援にも繋がった。

			オリジナルかるた型教材を用い、楽しみながら防犯について学んだ。調布市総合防災安全課より防犯講話、情報提供を行い、富士見コーナーより防犯ボランティアの紹介を実施した。
自転車の交通安全教室	1回/年	39人	調布警察署交通総務係による出前講座。令和8年4月から適用される交通反則通告制度(青切符)について主な違反行為と反則金、正しい交通ルールを動画と講話により座学で学んだ。交通安全に関わるボランティアの紹介を実施した。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
ちょうふ読み語りの会	通年		公益財団法人ソロプチミスト日本財団令和7年度ボランティア賞、東京都社会福祉大会知事感謝状を受賞。27年の活動の記録の聞き取り、取りまとめを行い、推薦書を作成した。
明治大学体育会 硬式庭球部	通年		地域イベントにおける同部のボランティア活動を支援し、市政功労賞、調布市福祉大会で表彰された。 10年の活動の記録の取りまとめを行い、推薦書を作成した。
門前そば打ちクラブ富士見会	1回/月	約28人 /1回	手打ちそばを試食会員に提供する活動。地域交流の場となっていることから、新規会員募集に協力した。
フードバンク調布	通年		ボランティア募集に協力した。
NPO 調布ハンディキャブ	通年		ボランティア募集に協力した。
ふふ富士見	通年		居場所で活動するボランティアや参加者の紹介、えんがわだよりでのボランティア募集記事の掲載、ボランティア保険加入手続き、寄付物品等、活動の伴走支援を行った。
うたごえ喫茶 in 富士見	1回/月	約20人 /1回	法人が主催する富士見ふれあいのつどいにも参画する活動であり、ピアノの演奏に合わせて唱歌、抒情歌を歌い、参加者の交流を行う。 スタッフとの打ち合わせ、広報、歌集作成に協力した。
ふじみパトロール隊	通年		石原小、石原小地区協議会、ちょみっと等で使用する広報物の作成、寄付物品等の支援、都や市への連絡のサポートを行った。

③ 関係機関との連携

第2部 ボランティア・市民活動の推進

項目	回数	参加人数	内容
子ども食堂かくしょうじ	2回/月	約100人 /1回	地域福祉コーディネーターと連携し、同団体の活動を支援した。ボランティア、寄付物品の紹介、見守り等を実施。むすびえの研修への協力、情報提供を行った。
地域交流センター まんまる	1回/月	約10人 /1回	民生児童委員と協働し、手芸ワークショップを実施した。小中学生を中心に手芸の基礎、簡単な小物づくりを行った。 高齢者と子どもがボッチャを通じて交流することを目的としたイベントに地域支え合い推進員、地域福祉コーディネーターと地域包括支援センターちょうふの里とともに協力した。
調布中学校桜まつり	1回/年	約200人 /1回	地域支え合い推進員、地域福祉コーディネーター、ボランティアと協働し、地域住民向けに缶バッジ作成ブースを運営し、募金、事業案内も実施した。
夏休みのラジオ体操	計32回	約35人 /1回	石原小学校地区協議会、健全育成石原地区委員会、石原小学校施設総合開放委員会、フードバンク調布、お米のシライ、有志が協力して開催した。チラシ作成や、体操カードの紐の寄付物品提供に協力した。
合同防犯パトロール	4回/年	約45人	石原小職員とPTA、石原小地域学校協働本部、調布中職員、ちょうふこどもネット、調布学園、皐月、石原小地区協議会、富士見町自治連合会、近隣住民、調布地区防犯協会、調布市総合防災安全課、調布市協働推進課、富士見児童館、調布市社会福祉協議会、富士見コーナー、わんわんパトロール隊、ふじみパトロール隊、石原小おやじの会、民生児童委員が参加。富士見コーナーはチラシ作成に協力した。
わんわんパトロール	通年		調布市総合防災安全課と連携し、ボランティア募集、広報に協力した。

④ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
富士見ふれあいのつどい (小地域交流事業)	1回/年	400人	開催に向け、舞台発表、模擬店、総務企画の3つの分科会に分かれて地域の団体、住民と準備を進めた。 実行委員会に加え、役員会にも出席し、イベントの方向性や企画案の打合せへも参画した。

ここからプロジェクト ～ここから見つかる！ 始まる！やりたいこと～ In 第三・石原・飛田給小学 校圏域	1 回/年	20 人	第 6 次調布市地域福祉活動計画に掲げる第 三・石原・飛田給小学校圏域の推進事業として として開催・参画した。 策定年度から現在に至る 2 年間の活動、新しい 資源を活動者発表で振り返り、共有、目標の再 確認・再設定を図った。策定メンバーだけでな く地域住民の交流の場とする。
第五中学校ボランティア ダンス部 「心も体も温まる地域交 流祭」	1 回/年	40 人	市立第五中学校ボランティアダンス部の生徒 による地域貢献の希望・ニーズを地域交流祭と して開催した。進行や演出に加え、ダンスの披 露だけでなく、座りながらの体操、脳力トレー ニング等の企画・運営も生徒達自身が行なっ た。舞台終了後には、希望者に向け生徒達によ るハンドマッサージを行った。

⑤ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
石原小地区協議会	1 回/年	30 人 /1 回	会議参加に加え、広報活動に協力した。地域と の連携を深めた。
地域ケア会議	1 回/年	30 人 /1 回	会議へ参加し、地域の民生児童委員、広報協力 員、福祉関係者との連携を深めた。

結果の概要

- 富士見コーナーが主催した講座について、取り上げたテーマの啓発促進に役立つと参加者、講師から好評であった。令和 8 年度以降も市や近隣団体と連携して講座を実施したい。
- 企業の社会貢献活動・CSR と行政の普及啓発のコラボレーションが好評であった。
- 団体支援については、活動者の新規募集を実施。活動者が高齢のため縮小する団体の相談に乗った。地域のために長年に渡り活動した団体の表彰への推薦等、今後も継続して伴走支援を行いたい。
- 関係機関との連携については、学校や団体との連携を通じ、防犯、防災、ボランティアに関する活動を通じて富士見コーナーの地域での存在感を高めることができた。
- 令和 7 年度も石原小地区協議会に参加した。

分析・課題

- 富士見コーナーでは地域団体や学校との連携を深めることができた。令和 8 年度は、CAPS や近隣の明治大学体育会などと更なる連携を図りながら、若年層のボランティア人材の発掘を試みたい。また、NPO 調布ハンディキャブと連携し、中高年層、高齢層の活動者を増やせるように協力したい。調布市総合防災安全課や、調布警察署と連携して、警察犬のイラストを活用した啓発活動、わんわんパトロールや犯罪被害防止の広報などを継続して協力していきたい。

(4) 染地コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティアまつり染地 「そめち マルシェ」	1回/年	約1000人	地域で活動しているボランティア・市民活動団体を中心に地域の若者から高齢者の交流の場として29回継続している地域に根づいたイベント。高齢化が著しい染地地域にあって世代交代が緩やかに進むよう支援した。
バリアフリー 映画体験会・染地	1回/月	約35人 /1回	高齢化が著しい染地地域において、高齢者の外出する機会とする。高齢者の気軽に立ち寄ることができる楽しい居場所づくりの取組。
染地 de ラ・ラ・ラ	1回/月	約18人 /1回	一人暮らしの高齢者、高齢者世帯の方々からの「声を出したい」という希望・ニーズを受け、創出したイベント。 脳カトレーニング、ボイストレーニングでウォーミングアップ後に、声を出して歌う。楽しみながら、健康維持を行うとともに住民同士の見守り合いの場にもなっている。
真夏のチャレンジ大冒険	1回/年	72人	染地を拠点に活動している3つのボランティア活動団体・個人Voの協力を得て、親子を対象とした取組み。 2年目を迎え、開催時期や内容を見直した結果、定員を上回る参加数となり、初年度と比較して賑やかな取組みとなった。反面、安全に事業を行うために職員体制など、受け入れ態勢をあらためて考える必要性を強く感じている。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
シニアヨガ	1回/週	約15人 /1回	新型コロナウイルス感染症で外出の機会を失った方々から「体を動かしたい」という希望・ニーズを受け、活動創設・立ち上げの支援をする。他団体と会場調整や広報など、継続した伴走支援をしている。
手話サークル染地	2回/月	約20人 /1回	染地在住の聴覚に障がいのある方の協力を得て、手話の啓蒙、障がい者理解を目標に活動創設・立ち上げ支援をする。手話による交流を深めるとともに、染地地域における地域共生社会の支え・支えられる地域の一環の活動として支援を行う。

調布 SPV	2 回/月	約 5 人 /1 回	2019 年浸水被害を受けた染地地域のアルバム写真の洗浄活動をきっかけに活動を始め、現在では、全国から洗浄依頼のある写真を請け負って活動をしている。他団体と会場調整や広報、全国から寄せられる寄付や取材依頼などの伴走支援を継続している。
小さな手	2 回/月	約 6 人 /1 回	メンバーの高齢化が進み存続が危ぶまれたが、メンバーの募集とその定着を継続支援している。
染地 be 助っ人 (びすけっと)	1 回/月	約 30 人 /1 回	子どもを取り巻く環境が著しく変化する中、孤食や悩みを抱える子どもたちの居場所づくりを目指し活動したいという地域住民の希望・ニーズを受け、立ち上げ支援をした。他団体と会場調整や広報への協力、活動資金などの相談を受け、伴走支援をする。 ※フードバンク調布より、食事やお菓子といった食品提供を受けている。
琴「かなで」	2 回/月	4~5 人 /1 回	染地地域で 30 年に渡り活動をしてきた琴仲間「染地」が解散をきっかけに、高齢になっても楽しくお琴を学び、仲間との交流を継続したいという希望・ニーズを受け、立ち上げを支援した。

③ 関係機関との連携

イベント名	回数	参加人数	内容
染地筋トレ通う会	1 回/週	約 20 人 /1 回	地域支え合い推進委員、地域包括支援センターと連携し、加齢による機能低下予防を推進した。 継続する中で、参加者同士の交流が生まれ情報交換の場となっている。
染地パソコン教室 & スマホちょっと相談室	2 回/月	6 人 /1 回 (予約制)	地域福祉コーディネーターとの連携により、新型コロナウイルス感染症をきっかけに地域で孤立する高齢者に対し、1 対 1 で対応する相談室を立ち上げた。参加希望者への情報提供や問い合わせといったフォローアップを中心に支援を継続する。
調布市立杉森小学校	106 時間 (53 回) /114 人	2~3 人 /1 回	「すぎもり地域学校協働本部」の地域コーディネーターからの依頼を受け、杉森小学校 5・6 年生の家庭科（ミシン縫い・調理補助）ボランティアを紹介、コーディネートする。概ね 70 代の高齢女性の活動の場として定着。小学生との交流に楽しみに参加している。

④ 社協内連携

イベント名	回数	参加人数	内容
高齢者会食	2回/月		調理ボランティアや利用者の紹介、相談窓口となり高齢者会食運営を支援する。
ふれあい給食	8回/月		ふれあい給食ボランティアや利用者募集などについて広報の協力や講師の紹介をした。
多摩川の楽しみ方発見は春に訪れ！ 植物編	1回/年	21人	第6次地域福祉活動計画の推進事業の企画に位置付け、染地住民にとって身近な多摩川をテーマに、地域の特徴である「多摩川自然館」を運営する(株)セルコの担当者を講師に招き、春の植物を散策した。ボランティア5人による豚汁とおにぎりで交流。新たな人材発掘の企画となった。令和8年度へつなげていきたい。

⑤ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
杉森地区協議会	7回/年	約25人 /1回	杉森地区協議会が主催する「防災訓練」等において運営協力を行う。法人が主催する「ボランティアまつり染地 そめちマルシェ」においては同会より、開催・運営において協力を得られ、支え合いの関係を構築している。
染地地区協議会	5回/年	約20人 /1回	染地地区協議会主催の防災訓練、防災講座・まつりなど様々な行事に参加、協力を通じ、連携を深めるとともに、コーナー、ボランティアコーディネーターの役割を地域へ普及することができた。

結果の概要

- 主催事業「ボランティアまつり染地 そめちマルシェ」において、高齢化が進む中若者にも興味を持ってもらえるようなまつりを目指し、朝とり野菜販売に新鮮屋の声かけや舞台発表における若い世代への提案など声掛けをした結果、来場者が増加、賑わいをましたが反面、模擬店の販売数が不足する現象が起きた。引き続き、様々な問題に地域住民の協力をいただきながらより地域に根づいた魅力ある「そめちマルシェ」を構築していく。
- 団体支援では令和6年、地域住民の要望を受けて新たに2つのサークルを立ち上げ参加者も増え地域に根付いてきていることを実感している。参加者との関わりの中で見えてくる様々な問題にスタッフと一緒に考え関係機関とつながることができるよう支援していきたい。
地域住民が自由な発想で意見交換する場であること、何より住民の声を反映したコーナーであることを目標に掲げて支援していきたい。
- 関係機関との連携を密にすることで新たな機関との連携することができ、多くの地域資源や情報を共有することができた。

○会議については積極的に参加することができた。会議に参加することで、地域住民の課題や動向が具体的に増えてくる大切な機会となっている。今後も継続的に参加していきたい。

分析・課題

○地域の高齢者の声に耳を傾け丁寧に対応することに大切に継続してきたことで、関係性深まり「外出する場」「情報交換する場」「仲間と交流する場」を求めて染地コーナーを訪ねてくる方が増えている。高齢者にとって、魅了ある活動団体となるよう活動団体への支援の仕方、広報等々に力を注いでいきたい。

○ボランティア団体の高齢化が著しい中、活動を継続するための相談が多くなってきている。

また、子どもの居場所づくりをスタートして1年は経過。今まで見えてこなかった子どもや外国人の抱える様々な問題が見えてきた。関係機関と連携し、支援していきたい。

(5) 緑ヶ丘コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい	2回/年	パート1 500人 パート2 80人	11月2日開催。出店、舞台発表、バザー展示など行った。地域の子ども・緑ヶ丘小PTA・八中PTA、白百合女子大ボランティアなどの参加もあり、世代を超えたまつりとして盛況であった。また、令和7年度は2月に地域の歴史と現在の活動について「緑ヶ丘今昔物語」と題して、「パート2」も開催。地区協田中会長、第八中学校馬場校長の登壇・講演いただき、また、八中の学生にもボランティア経験での感想等を地域の皆さんと共有する場となった。
バリアフリー映画体験会	1回/月	約35人 /1回	高齢化が進む緑ヶ丘地域において外出の機会とする。高齢者の居場所づくりの取組。地域での認知度も上がり、開催を心待ちにする声も聴かれるようになった。また関係機関から、地域活動への参加が初めての方へ、最初にご紹介する場としての相談もあった。
手芸の時間「ふらっと」	1回/月	3～7人 /1回	地域でまだ活動先がなく、団体には入りにくさを感じる方や、一人暮らしの方などが、地域での交流への第一歩となる機会と考えている。参加者からのお声をヒントに、3月につつじヶ丘地域包括支援センターによる出前講座「地域包括支援センターの役割」「フレイル予防」を開催した。
簡単カルトナージュで	1回/年	6人/1回	講師の方から「地域の方が気軽に参加できる、

サシェ作り			簡単な作業の手作りの場を提供してみたい」とのご相談を受け企画。参加費の収益は、えんがわファンドの資金として寄付いただいた。
-------	--	--	---

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
おしゃべりサロン(パート2)	1回/月	約15～20人 /1回	令和7年度から活動、毎月第1月曜日に開催。奇数月を健康体操、偶数月をレクリエーションダンスを通して、地域の方への体を動かす場として活動。令和7年度は特に地域の方からの体を動かす場の情報を知りたいとの相談が多かったことと、筋トレグループが定員増のため、こちらをご案内することも多く、緑ヶ丘地域での健康作りの新しい場となっている。
筋トレグループの会	4回/月	約20人 /1回	地域の病院等からの紹介での問い合わせがあったこと、ロコミでの広がりもあり、参加人数が増えたため、新規の参加についてはお断りする形になっている。地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、地域包括ともこれについて相談・連携し、令和8年度新しい十筋体操のグループの立ち上げへのきっかけとなっている。

③ 関係機関との連携

イベント名	回数	参加人数	内容
仙川オレンジカフェ	1回/月	約25人 /1回	つつじヶ丘地域包括支援センターと連携して団体を支援。開催内容や、当日運営の支援、振り返りや今後の活動内容の検討などを行った。

④ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
地域ケア会議	12回/年	約10人 /1回	地域包括支援センターつつじヶ丘・調布ゆうあい福祉公社・地域福祉コーディネーター・地域支え合い推進員・緑ヶ丘コーナーが参加。主に高齢者関連の地域における問題・課題について情報共有した。
緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会	8回/年	約30人 /1回	運営委員の一員として参加。地域の問題・課題について共有した。
緑ヶ丘児童館運営会議	2回/年	約30人 /1回	地域福祉コーディネーターと共に出席。近隣の子どもに関する機関や団体等との情報共有をした。

結果の概要

- 緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどいは、実行委員会を通じて、地域の諸団体と関わりを深められる機会となった。また、2月に開催の「パート2」では、「緑ヶ丘仙川 今昔物語」と題して、地域の過去と第八中学校が取り組んでいる生徒と地域を繋ぐ活動への想いを、地域の皆さんへ発信できる場となった。
- 団体支援については、既存の団体からの活動内容についての相談や、新しく団体を立ち上げたい旨の相談を受けた。
- 関係機関との連携については、会議などに積極的に参加することで、また足を運ぶことで新しい関係作りと、様々なことを相談し合える関係をつくることができた。特に令和7年度は、白百合女子大学ルイショーベセンターとの関係作りができた。ルイショーベセンターのイベントに依頼があり飛び入り参加するなどし、こちらからもボランティアの依頼など、お互いで相談しやすい関係作りができてつある。

分析・課題

- 令和6年度に引き続き令和7年度も「気軽に立ち寄れる、相談ができるコーナー」という場所であるための雰囲気作りに重点を置いた。市民活動支援センターが「まちのえんがわ」をコンセプトに掲げているのと同様に「緑ヶ丘のえんがわ」でありたいと常に考えている。その結果、相談の内容もボランティアに関するものにとどまらず、生活における困りごとや、近隣の方が困っていることを代わりに相談に来るなど、関係機関に繋げる相談内容があった。引き続き、地域行事への参加・団体の支援を行なうことで、信頼関係・繋がりをさらに構築し、令和8年度も、地域ニーズとボランティア団体との接点、個人のニーズとボランティア団体や地域との接点を考察しながら支援に取り組みたい。
- 活動する団体メンバーの高齢化が進んでいる。しかし、高齢の方の中にも、新しい意欲でボランティアを望み、活動を希望する方がいるのも事実である。また、精神に障がいのある方が、地域で自分の特技を生かしてボランティアをしたいという相談も受け、チラシ作り等、その方ができる形でのボランティア活動を一緒に考えた。世代や、障がい等を越えて、活躍できる場・繋がれる場がある地域作りのために、コーナーとして何ができるのかを、引き続き令和8年度も考えていきたい。
- 狛江団地から緑ヶ丘団地への移住の方増により、地域包括支援センターからの紹介や相談が令和6年度末から増加している。相談を受ける中でニーズを把握し、その方にあった団体紹介や活動紹介をするために、市民活動支援センターのコーディネーターや、地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員、包括支援センターとも連携を更に図りたい。

(6) 西部コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
第五中学校ボランティアダンス部 「心も体も温まる地域交	1回/年	45人	3月21日、第五中学校ボランティアダンス部の生徒達の協力により地域交流祭を開催。令和7年で10回目。1,2年生を中心に卒業式を

流祭」			終えた3年生も1人参加。進行、演出も生徒達自身が行う。ダンス披露に加え、イスに座りながらのラジオ体操、後出しジャンケン等の脳トレ等、観客も参加できるプログラムを企画。舞台終了後には、生徒達が予約者にハンドマッサージを行った。
ポッチャ体験会 「ポッチャ de わいわい交流会」	6回/年	20人/1回	正式ルールではなく3種目的にボールを入れて得点を競う簡単なルールで開催。2チームに分かれて合計点数を競う。高齢者はもとより初心者も楽しめて人気の活動として定着している。
バリアフリー映画体験会	4回/年	約20人 /1回	7,9,11,1月に開催。より多くの方に楽しんでいただくためのバリアフリー映画体験会を引き続き実施。解りやすく楽しく笑顔になる映画をセレクト。毎回映画を楽しみにしているというお声もいただいている。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
電車っ子 party	1回	41人	9月20日に令和6年に引き続き西部地域福祉センターで開催。電車を通じて幼い子どもの保護者のつながりを作ることを目標としている。西部地域福祉センターに来訪する親御さんたちへの周知を行った。11家族33人、スタッフおよび家族8人の計41人が参加した。

③ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
ふらっと喫茶	1回/月	約15人 /1回	「語る、学ぶ、繋がる」をテーマに青木病院認知症疾患医療センター、地域包括支援センターちょうふの里、調布ゆうあい福祉公社が毎月1回共催している認知症カフェの運営に社協地域福祉推進課とともに協力。西部地域福祉センターでボランティアを行っている民生委員にもご協力いただいている。
コミュニティスペース ふらっと	1回/月	約10人	青木病院が地域の居場所として令和6年9月に開所した「ふらっと」。月曜日から金曜日まで10時から16時まで地域の高齢者が安心して過ごせる場所となっている。 地域福祉推進課の地域支え合い推進員と連携して、利用者のお話相手、折り紙などサロンのお手伝いをしてくださるボランティアを紹介

			していく。 参加者の方々に、西部地域福祉センターで開催する活動を周知していくことで行動範囲を広げる支援を行う。
SOMPO ケア ラヴィーレ調布 さくらカフェ	1 回/月	約 10 人	西調布にある有料老人施設「SOMPO ケア ラヴィーレ調布」で月 1 回、利用者様のレクリエーションを行う。地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員が主催。簡単なボーリング、ラジオ体操、童謡の合唱など高齢者や認知症の方が楽しみながら参加するプログラム。民生委員にもご協力いただいている。11 月から絵本の読み聞かせでボランティアを紹介。利用者様だけではなく地域の高齢者が利用できる場となるように周知していく。
西部学童／西部児童館	10 回	3 人	令和7年9月飛田給小学校スクールソーシャルワーカーから地域福祉コーディネーターに飛田給小2年男児の学習支援の依頼があった。児童民生委員2人にボランティアを依頼。学習支援場所として男児が通う、西部学童及び西部児童館に学習場所の協力を依頼した。令和8年1月より週1回木曜日15時から30分程度、工作室または保育室を使用している。読み書きに遅れがある、勉強への集中力が続かないなどの特性があるので、静かな空間でボランティアと学習に向き合える時間と環境は貴重。学童職員、児童たちの理解も得られている。

④ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
西部小地域交流事業	1 回/年	約 250 人	10 月 12 日、西部地域福祉センターにて開催。カラオケ、楽器演奏、ダンスなど多世代の参加者の舞台があった。ロビーでは新しく輪投げコーナーを設置。子供たちだけでなく大人も楽しんだ。
高齢者会食	2 回/月	8 人	第2、第4木曜日に開催。登録者8人。利用者の方々はたくさんの方々と一緒に食事ができることを楽しみしている。参加希望者の問合せも多くあるが、歩いてこられないなど、なかなか参加に結びつかない方もいる。

⑤会議への参加

項目	回数	参加人数	内容
地域ケア会議	1回	30人	ちょうふの里主催の地域ケア会議に出席。民生委員、調布ゆうあい公社、青木病院などのスタッフが参加。圏域での事例を基にグループワークを行い、参加者で支援のあり方について検討、発表をした。

結果の概要

- 第五中学校ボランティアダンス部「心も体も温まる地域交流祭」は、令和8年で10回目を迎える恒例のイベント。普段接する機会のない地域の高齢者と生徒達との世代を超えた交流の機会。ダンスにエネルギーをもらい、脳トレの後出しジャンケンでは全員参加で笑い声が上がった。後半のハンドマッサージも好評で、高齢者と話す機会の少ない生徒達にも良い経験となった。今回は部員も8人、お彼岸3連休の中日で参加者も20数人と多くはなかったが温かい交流祭となった。ボランティア8人がお手伝いをして下さり、地域の方々が協力して作り上げた地域交流祭となった。
- 「ボッチャ de わいわい交流会」と「バリアフリー映画体験会」を毎月交互で開催した。西部地域福祉センターを利用する高齢者たちが毎回楽しみにしているイベント。参加者は80代～90代だがボッチャは回数を重ねるうちに上手くなり、進行のお手伝いもしてくださる。映画では毎回笑顔になるような作品を選び楽しんでいただいている。両イベント後は皆さんおしゃべりしたり、交流が盛んになっている。

分析・課題

- 西部地域福祉センターを利用する方の高齢化、ボランティアの担い手減少が進んでいる。「ボッチャ」は人気イベントなので、ひだまりサロンに移行したいと考えたが、代表の担い手が見つからない状況。
- 高齢者の活動支援が中心となっているが、第五中学校ボランティアダンス部との関りや飛田給小学習支援等の繋がりがあるので、学童、児童館、保育園等、子育て世代の支援も考えて行きたい。
- 週3日の勤務体制になり、近隣の高齢者施設、こども食堂、地域の活動へ出向く機会が少なかったため、令和8年度は日程調整をして活動を見学していきたい。

(7)野ヶ谷の郷

結果の概要

○梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

【概要】

機能	①ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設

貸 出 日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	45 人（うち役員 12 人）

実績等

① 総会・スタッフ交流会

日 時	4 月 23 日 10 時 30 分～正午
内 容	以下の議案を提案し、承認された。 ・令和 7 年度事業報告・決算報告・監査報告 ・令和 8 年度事業計画（案）・令和 8 年度予算（案） ・令和 8 年度役員（案）
参加者	出席 30 人

② 野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家 綾子	副代表	小阪井 真樹子	会計	磯野 幸子
会計	石川 規子	会計監査	柄澤 宏子	役員	平柳 千鶴子
役員	関口 邦子	役員	白石 明康	役員	谷宮 ノリ
役員	名和 静子	役員	渡辺 智恵子	役員	高橋 アキコ

○役員会を 6 回開催し、運営について話し合いを行った。

③ ボランティアスタッフによる独自活動

内 容	開催日時
絵を描こう会	第 1・第 3 土曜日
手しごとの日（パッチワークの日改め）	第 4 木曜日
折り紙の日	第 4 火曜日
お直しの日	第 2・4 土曜日
やってみよう！	火・木・土の 16 時～17 時
筆記の会	第 1 土曜日
ちぎり絵の日	第 3 土曜日
ふれあいランチ	第 2 土曜日
子ども食堂の活動応援	不定期

分析・課題

○8 月には、梅の湯商店会納涼まつり実行委員会へ参画・出店し焼きそば・フランクフルトを販売した。

○9 月、1 月は「調布の昔と今」、「権利擁護」を題材に勉強会を行った。

○11 月は「野ヶ谷の郷×梅の湯クラシックコンサート」を主催し、地域の高齢者を中心に他地域も含め、100 人以上の参加者が来訪した。

○毎年行う、チャリティバザーでは自作した小物や持ち寄りの寄付品を販売し、約 5 万円の収益を得るとともに、社会福祉協議会へ寄付を行い、野ヶ谷の郷の運営助成金の一部を返還した。

第2 情報・資料の収集及び提供

1 えんがわだよりの発行

結果の概要

○ボランティア募集や市民活動に関する話題を取り上げる機関誌として発行。

○令和7年度は、えんがわファンド助成団体の活動のほかに、市内小学校での福祉教育出前講座、東京2025デフリンピック、ちょうふチャリティーウォーク等多様なテーマを特集記事に取りあげ、社会課題や社会参加について考えるきっかけづくりに取り組んだ。

○特集記事の作成にあたり、職員が関係する団体や機関の活動現場を見学・取材することで、紙面の充実と団体とのパートナーシップ向上に努めた。

【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通し新たな人々との関係を構築する。
編集方針	○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていく。 ・ボランティア活動などの市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。 ・市民活動団体の情報発信源となる。 ○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていく。 ・社会課題に取り組む市民活動などを通して、地域社会の現状と将来について考えていく。 ・さまざまなネットワークを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。 ○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていく。 ・センター事業の報告などを通じ、センターの取組を紹介する。
発行日	隔月15日発行（4月、6月、8月、10月、12月、2月）
発行部数	毎月1,300部
配布先	・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学 ・市民活動支援センターサポーター会員 ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	・特集記事（地域の市民活動団体紹介、社会課題解決の取組紹介他） ・ボランティア募集 ・お知らせ（地域の市民活動情報、助成金情報など） ・センターからの発信（コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介）

実績等

各号の特集記事の内容

号数	内容
4月号 (No.211)	ともに生きる～あたたかいまちをめざして～布田小学校 4 年生「総合的な学習の時間」
6月号 (No.212)	特集 「ちょうふ読み語りの会」
8月号 (No.212)	デフリンピックが調布にやってくる！！
10月号 (No.214)	ちょうふチャリティーウォーク
12月号 (No.215)	特集 「デジタルペイント ハウス」
2月号 (No.210)	市民が市民を支える助成金「えんがわファンド」助成団体紹介

分析・課題

- ボランティア・市民活動が調布のまちに根付いて広がる状況を創り出すために、様々な地域課題や市民活動の情報を発信していく必要がある。
- ボランティア・市民活動に多くの市民や組織が参加し、つながる機会を創り出せるよう、市民のニーズをとらえた記事づくりや取材を通じた関係者とのパートナーシップ強化に取り組む。
- ボランティア・市民活動に関する情報を必要とする人に届けられるよう、紙媒体に加えWEBによる発信を効果的に組み合わせて発信していく。

2 市民活動支援センターホームページ運営

結果の概要

- トップページ、イベントページのアクセス数が7%程度減少した。一方で、ホームページ全体アクセス数は25%程度増加した。
- 市民活動団体リストの刊行年度に伴い、登録団体の状況確認を行った。情報公開は行っているが活動が行われていない団体、代表の交代の中で閑却されていたページも確認し、現在 209 団体がセンターの団体ページを公開している。（他に活動中止・終了・廃止など団体の事情により、非公開団体が 660 団体）
- スマートフォンからのアクセス数の増加に応じ、モバイルでも読みやすい画面展開が可能となった。

実績等

- センターのお知らせページはじめ、ホームページ内の各種情報発信を行った。

トップページのアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
令和5年度	1,354	1,346	1,761	1,804	1,407	1,273	
令和6年度	1,074	1,028	2,435	1,344	850	687	
令和7年度	917	864	1,344	1,301	1,027	1,149	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
令和5年度	1,054	1,137	1,164	1,147	910	1,164	15,521
令和6年度	884	853	726	838	809	912	12,440
令和7年度	946	801	710	785	793	925	11,562

イベントページのアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
令和5年度	1,620	2,296	3,045	260	2,371	2,332	
令和6年度	1,768	2,496	2,580	2,864	2,481	4,415	
令和7年度	1,976	2,406	2,515	2,593	2,550	2,693	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
令和5年度	3,117	3,414	2,362	2,525	2,391	3,036	28,769
令和6年度	3,206	3,471	2,513	2,469	2,651	2,335	33,249
令和7年度	3,500	2,717	2,153	2,982	3,481	2,183	31,749

全体のアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
令和5年度				8,143	8,364	8,072	
令和6年度	6,615	7,522	11,422	9,374	6,773	8,205	
令和7年度	7,254	7,060	9,357	12,397	10,108	11,534	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
令和5年度	7,845	8,539	7,536	8,101	7,447	8,660	72,707
令和6年度	7,191	7,893	5,769	6,655	7,192	7,449	92,060
令和7年度	10,629	9,192	7,894	10,053	10,395	8,870	114,743

分析・課題

- イベントだけでなく、センター広報誌の固定ページ化、貸し室の固定ページ、利用方法や利用時間など、各コンテンツを見直したことも、アクセス数増加の要因になった。
- 地元の映像会社の協力によって、センターの紹介動画なども投稿をした。
- センターの利用者は10代の利用者が約25%を占めることから、情報発信のみでなく、使いやすさや視認性、読み込み速度などが課題と言えるため、引き続き検討をしていきたい。

3 資料コーナーの充実

市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけとして、市民活動支援センター内に資料コーナーを設置し情報を発信している。

結果の概要

- 市民活動支援センターへの来館者が増加傾向にあるなか、日頃から資料コーナーに足を止めて情報収集を行う姿が見られている。
- 情報発信を希望する団体からの掲示・配架依頼に対応するとともに、市民からの地域情報の問合せ等に資料コーナーの情報を参考に対応している。
- センター利用者アンケート調査において、市内のこども食堂の一覧情報の希望があり、館内にこども食堂マップを掲示した。

4 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

結果の概要

- 調布市報、J-COM株式会社（CATV）、調布エフエム株式会社、地域ポータルサイト（ちょうふどっ
とこむ・ちょみっと）等の協力を得て、映像やラジオ、紙面など多角的な情報提供に取り組んだ。
- 市民活動団体に調布エフエム放送の番組出演を依頼し、団体の情報発信機会の一助につなげた。
- ふくしの窓では、毎月ボランティア情報等を「伝言板」として掲載している。
- センターの公式Xを運用し、タイムリーな情報提供を行っている。令和7年3月31日現在のフォロワ
ー数は、944人となっている。
- 公式LINEを運用。学生などの若者世代への情報発信および問合せに対応している。

5 市民活動団体リストの発行

結果の概要

- 「令和6年・7年度市民活動団体リスト」を発行し、市内公共施設やセンター内で配架を行った。
掲載団体数は311団体。
- ペーパーレス化・環境負荷削減の取り組みの一環として、前回リスト発行時と比較し、冊数を約
200部削減することに成功した。加えて、ホームページを活用した情報発信・情報更新に注力し、
全体閲覧数が22,500件増した。（前年度比）
- 調布市生涯学習情報コーナーと協力し、生涯学習情報コーナー発行のサークルガイドブックを配
布した。

第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

結果の概要

- 市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなど、様々な目的に応じてスペースの貸出しを行った。

実績等

(1) 市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況

① 来館者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館 者数	3,211	3,608	8,893	11,336	3,307	3,664	4,520	3,984	3,410	3,648	12,667	3,413
一日 平均	111	120	307	378	114	126	151	137	126	135	487	114
前年 同月比	110%	127%	282%	117%	108%	104%	42%	109%	106%	114%	374%	67%

※6月 東京都議会議員選挙 期日前期間 6月17日～6月21日

※7月 参議院議員選挙 期日前期間 7月15日～7月19日

※10月 まち活フェスタ

※2月 えんがわフェスタ

衆議院議員選挙 期日前期間 2月3日～2月7日

※3月 えんがわミーティング開催

上記は来館者が増加した理由。

② 活動スペースはばたき・0A コーナー利用者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者	2,562	3,020	2,843	2,970	2,765	3,107	3,138	3,432	2,906	3,100	2,741	2,643
一日平均	88	101	98	99	95	107	105	118	108	115	105	88
前年同月比	102%	121%	103%	110%	109%	104%	94%	110%	104%	113%	96%	101%

③ 年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	令和6年度	令和7年度	対前年度比
来館者数(人)	54,430	65,661	121%
利用者数(人)	33,491	35,227	105%
相談件数(件)	995	1,356	136%

【利用者数内訳】

	令和6年度	令和7年度	対前年度比
活動、打ち合わせ、相談など	17,970人	17,575人	101%
パソコン利用	2,221人	2,208人	99%
学習	13,026人	15,213人	117%
印刷機	274人	231人	84%
合計	33,491人	35,227人	107%

分析・課題

○活動スペース「はばたき」は、団体・個人とも調布市内だけでなく、近隣他市からの利用者も多い。駅からのアクセスも良く、利便性が高いようだ。

○パソコンコーナーについては、市民活動・ボランティア活動の支援という本来の目的以外の活用が多い。パソコン印刷については、他の利用者との混入を防止する対策を行った。

○令和4年度から設けた「えんがわギャラリー」スペースは、センターやランチで活動している団体の成果発表の場や、会員募集などの目的で使用されている。コンパクトなスペースだが、センター内の交流場所として認知されてきている。展示希望の申し出が有った際、休館日や期日前投票等を考慮する必要がある。

○ちょみっとの周知は行っているが、実際の利用が促進できていないため、普及啓発に努める。

(2) ロッカー、メールボックス、倉庫2スペースの貸し出し（国領）

結果の概要

- センター内に設置しているロッカー、メールボックス、倉庫2の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行っている。
- ロッカー・メールボックスの利用団体数について、利用頻度の減少を理由に令和6年度との比較で若干減少している。
- 倉庫2スペースは、1団体返却され、15団体の利用となった。

実績等

内 容	令和 6 年度	令和 7 年度
ロッカー利用団体	93 団体	93 団体
メールボックス利用団体	43 団体	39 団体
倉庫 2 空きスペース利用団体	16 団体	15 団体

分析・課題

- 年に1回の更新手続き、日々の鍵の貸出しなど、職員と団体が話をする良い機会となっている。引き続き、こうした小さな機会を大切にしていきたい。
- 倉庫2スペースについて、新規希望団体はなく、抽選は行われなかった。

2 電話対応代行サービス（国領）

結果の概要

- 市民活動団体が実施する活動やイベント・講座等に関する問い合わせ・受付けの支援サービスとして、電話対応代行サービスを実施した。

実績等

利用料金	一件につき、月額 1,000 円（サポーター会員は 800 円）	
利用件数	令和 7 年度：延べ 7 件（5 団体）	令和 6 年度：延べ 13 件（6 団体）
サービス内容	行事・講座・講演会等への内容照会および参加申込受付代行・団体の活動に関する問合せへの応答代行	

分析・課題

- 令和 6 年度との比較で、利用件数が半数に減少している。利用ニーズを把握のうえ、今後のサービスの見直しも含めて検討したい。

3 印刷機の設置・運用

結果の概要

- 市民活動団体のイベントチラシや会議資料等、大量の印刷物を安価に印刷できるよう、利用講習修了者であれば誰でも活用できるリソグラフ式印刷機を設置している。利用料は、マスター1枚につき50円、印刷枚数500枚につき100円の費用徴収を行っている。

実績等

利用実績	令和6年度	令和7年度
印刷機利用件数	142 件	116 件
印刷機利用者数	261 人	246 人
印刷講習受講人数（新規利用者）	6 人	10 人

分析・課題

○令和6年度比で利用件数・利用者数ともに減少している。

4 コミュニティルームの管理運営

結果の概要

○国領駅北ふれあいの家の廃止に伴い、同室を市民活動支援センターの一室に位置付け、地域活動等の場として継続的に利用可能とするため、令和6年4月1日から調布市からの委託によりコミュニティルームの管理運営を開始し、2年が経過した。

実績等

	令和6年度	令和7年度
利用件数（人）	661	570
利用人数（人）	4,816	4,348

分析・課題

○令和6年度と比較し、利用人数が1割減少した。特に夜間帯の利用件数・利用人数が前年度比3割以上減少している。

5 市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

- 市民活動や地域活動への参加の広がりに向けて、すでに活動中の団体やこれから活動を始めようとする人たちへのサポートの取組として、ファンドレイジングや広報をテーマに地域人材養成講座を開催した。
- 令和7年度・過年度の市民活動助成事業「えんがわファンド」の助成を受けた団体、市民活動支援センターホームページ登録団体のほかに、地区協議会や自治会等の地域団体、関係機関等からも参加申込があった。
- 寄付や消費、投資等様々なお金の使い方を通してウェルビーイングを疑似体験するカードゲーム「from Me体験会」を日本ファンドレイジング協会の協力により企画したが、イベント実施に必要な参加申込に至らず実施を見送った。
- 当協議会地域生活支援課通所介護係と連携し、「食に関するボランティア講座」を開催し、ボランティアの基本的な考え方等を説明した。
- 市内で活動する市民活動団体のNP0法人化等に関する個別相談会を開催した。

実績等

プログラム名	開催日	回数	参加者数 (延べ)	講師・登壇者
地域人材養成講座 「団体の強みを活かし協 力者・活動資金を増やそ う」	令和8年 2月14日	1回	21人	森 玲子氏（東京ボランティア・市民 活動センター 専門員）
地域人材養成講座 「～みんなで考えよう～ 伝わるチラシのつくり 方」	令和8年 2月23日	1回	24人	いぬい かずと氏（グラフィックデザ イナー・造形作家）
市民活動支援に関する講 座 「食に関するボランティ ア講座」	令和8年 2月22日	1回	13人	ニッポンベンガルフレンズサークル サラム エムディ アドブス氏
市民活動支援に関する相 談会	令和7年8 月28日・ 10月12日	2回	6人	市民活動支援センタースタッフ

分析・課題

- 令和7年度に市民活動支援センターホームページ情報登録団体向けのアンケート調査を実施した。その結果において団体の担い手不足や活動資金調達に関する課題を感じている団体が多く見られたことから、「ファンドレイジング」「広報」をテーマに地域人材養成講座を開催した。両講座とも参加者の満足度は高く、団体のニーズを反映した講座を開催できた。
- 「ファンドレイジング」をテーマにした地域人材養成講座は、令和7年度の市民交流事業「えんがわフェスタ」で「寄付文化の醸成」をテーマに企画を検討するなかで、市民活動団体のファンドレイジング力向上に向けた支援の必要性に関する議論があったことも理由に挙げられる。
- 本講座を受講してその後学んだことがどのように活かされているか、追跡調査やフォローアップを行うことで団体のサポートにつなげていきたい。

6 不要になった入れ歯、使用済み切手・カード類、書き損じはがき、外国コイン類の回収

結果の概要

- 使用済み切手、カード類の回収は、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、子ども食堂、サロン等市民からの寄付も募った。
- 回収する物を示すチラシを作成する事に加え、毎年の売上げ報告も掲載している。市民活動を応援する「えんがわファンド」の原資として、活用していることを周知した。
- 不要入れ歯の回収容器を総合福祉センターに設置し、回収活動を行っている。業者の買い取りは、2、3年に一度のペースになっているが、令和7年度は3年ぶりの買い取りとなった。入れ歯に含ま

れる金属の価格が高騰していることもあり、換金額が大きくなった。

実績等

種 類	売上金額（円）	換 金 日
通常切手 記念切手類	21,000	12月 3日
書き損じはがき	19,800	
使用済みカード類	3,800	
外国コイン	8,200	
不要入れ歯回収益金	232,610	2月 18日
計	285,410	

7 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

○地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する事業である。（平成18年度より実施）

○幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的として実施。

○市民ファンドとして、市民や企業からの寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カードの販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用した。

実績等

(1) えんがわファンド選考委員会

① 選考委員会の開催状況

開催日	6月19日 19時～21時
会 場	市民プラザあくろす市民活動支援センターコミュニティルーム
内 容	応募団体22団体を書類審査により14団体に助成決定

② えんがわファンド選考委員 ◎…選考委員長

◎水田征吾	第12期市民活動支援センター運営委員長
南條勉	ファンドレイザー
森玲子	東京ボランティア市民活動センター専門相談員
赤羽根寛文 ^{ひろあき}	過年度助成団体（調布さくらウインドオーケストラ団長）
村上紗弥花	調布まち活フェスタ実行委員
田島誠	市民活動支援センター長

(2) 助成先団体 計 14 団体 助成総額 822,014 円

【令和7年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	にゃんぷるワールド	15,000	こどもたちが好む乗り物やヒーローなどの内容をブロックをで再現する体験を通じて、自分作ることの楽しさや創意工夫を体験するイベントに使用する材料費、印刷費
2	調布LGBT&アライの会	6,412	性の多様性に関する啓発活動、当事者とアライの充実した共生社会を目指すことに資する多様性講座の講師料一部、にじいろお話会の会場費、ニュースレター印刷代
3	Curious Link ※1	0	児童養護施設で暮らす若者を始めとする地域の中高生を対象にした「好奇心を育てるイベント」の会場費（付帯設備含）、謝礼、広報費、雑費
4	一般社団法人 mogmog engine	100,000	摂食嚥下障害があっても外食を楽しむことが可能になる「もぐもぐスタンド」の設置に向けた普及活動やレンタル料（ミキサー・ブレンダー）、チラシ作成費、会場費、人件費
5	つぼみの会 ※2	88,438	口唇口蓋裂の疾患を有する患者・その保護者の交流の場に関する経費（会場費・講師料・絵本・チラシ代）
6	調布まちの減災ナース染地	100,000	看護職の専門性を持ち、地域での減災・防災活動を行う際に用いる広報チラシ、チームユニフォーム、ネームホルダー、講師代、手洗いチェッカー専用薬液/容器、ペーパータオル・ビニール袋、救急セット代
7	デジタルペイントハウス	100,000	不登校や孤立、不安を抱える少年・若者世代の居場所づくり。デジタルイラスト作成イベントへの出展費、会場費、消耗品費、講師謝礼費など
8	手作り市	12,234	手作り品の作成・販売を通じた人の交流を目指して、イベントを開催する際に使用するのぼり旗（大2、小30）、団体紹介カード、スタッフバッジ、チラシ代
9	にぎわいのある街をつくる会	56,961	豊かな芸術文化・スポーツを育む街づくり宣言に基づき、建て替えの進む多摩川住宅での新旧住民の交流イベントを行う際のチラシ印刷費、伴奏者謝金、事務費ほか
10	緑ヶ丘ノルディックウォーククラブ	34,660	高齢者などの健康維持のため、「100歳でも歩ける」を目標にしたウォーキング活動で使用する折り畳みベンチ代、折り畳みテーブル代、専用ポール代
11	スペードの会	100,000	男性介護者を対象とし、当事者や元介護者を中心

			に、お互いの悩みや課題といった情報交換を行う居場所。啓発を目的とした講師代、チラシ印刷費、施設利用費、講演会雑費
12	一般社団法人ギフテッド	100,000	知的・発達障害のある子どもとその家族が主体的な思いを表現する場、インクルーシブ社会を体験することのできるイベント運営費、消耗品費、グッズ製作費、広告宣伝費
13	電車っ子PARTY	74,900	父親の育児参加・地域参加の促進、普及イベントを開催するための広告宣伝費、玩具・書籍代、文具・消耗品代、備品代
14	元気はつらつ運動会実行委員会 ※3	33,409	精神障害者同士が事業所間を超えた交流を通じて、感情の表出、意欲や積極性といった非日常的な側面での社会復帰支援として行う運動会の弁当代、飲料代、パン食い競争用パン、行事保険料、景品代金

※1 当初 100,000 円の助成決定を受けたが、年度途中で辞退の申出があり助成金 100,000 円の返還が生じた。

※2 当初 100,000 円の助成決定を受けたが、精算報告により 11,562 円の助成金返還が生じた。

※3 当初 33,796 円の助成決定を受けたが、精算報告により 387 円の助成金返還が生じた。

(3) 財源（寄付金等）

実績等

令和7年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	令和7年度	令和6年度	令和5年度
サポーター会費	215,000 円	207,000 円	259,000 円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	188,130 円	177,147 円	214,314 円
指定寄附	193,983 円	113,394 円	168,305 円
リサイクル益金 (使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯)	285,410 円	111,550 円	57,360 円
市民活動支援センター募金箱	48,242 円	22,274 円	35,507 円
合計	930,765 円	631,365 円	734,486 円

分析・課題

- えんがわファンド助成金を受けた団体が、地域や社会にどのようなよい効果をもたらしたのか、市民の共感が得られるよう情報発信を工夫する必要がある。
- 助成を受けた各団体の自立運営に向けた伴走支援に力を入れたい。
- リサイクル益金は、金の価格上昇の影響により入れ歯リサイクルの益金が大きく寄与した。入れ歯リサイクル益金は2～3年に1回程度の回収のため、他の方法による財源確保に取り組む。
- 運営委員会において遺贈寄付の受贈も視野に入れた取組の必要性について意見が挙がっている。えんがわファンドに限らず、寄付文化の醸成に向けて遺贈寄付をテーマにした企画を組む等新たな取組を検討したい。

第4 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

結果の概要

○相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

実績等

(1) ボランティア団体登録状況

○情報登録団体 311 団体（市民活動団体リスト掲載数）

○小島町コーナー登録団体 83 団体

○登録団体は、ボランティア活動室や総合福祉センターの印刷機を利用できるほか、活動室内の棚やメールボックスが利用可能になる。情報登録団体と重複している団体が多い。

(2) ボランティア活動状況

結果の概要

○保険加入者数 4,024 人（令和6年度 4,008 人）

○個人で活動するボランティアは登録制度をとっていない。その為、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入者数が実態に近いと考えられる。この中には、施設等で長年継続して活動されている方等、コーディネート件数に含まれないボランティアも入っている。

(3) 相談業務及びコーディネート事業

結果の概要

○全体的に前年度と比較して来所者数が減少している一方で、相談数が増えている特徴がみられた。

○相談に訪れる市民の多くは、各種活動中や活動後に立ち寄りの中で、相談が展開されることも多いため、各コーナーにおける活動の充実も相談数の増加の一助になっている様子。

実績等

(1) 相談件数

拠点	小島町	菊野台	富士見	染地	緑ヶ丘	西部	国領	合計
相談件数	2,622 件	204 件	575 件	2,736 件	251 件	192 件	1,356 件	7,936 件

(2) ボランティアコーナー（ランチ）来所者数

拠 点	来所者数
小島町コーナー(週5日)	※ボランティア活動室利用者数 3,760 人
菊野台コーナー(週3日)	2,484 人
富士見コーナー(週3日)	4,149 人
染地コーナー(週5日)	7,200 人
緑ヶ丘コーナー(週3日)	4,624 人

西部コーナー（週3日）	2,028人
合 計	24,245人

分析・課題

- 小島町コーナーは総合福祉センター内に拠点があることから、行政などの関係機関をはじめ、法人内の他課や他係から来館以外の方法でも相談を多く受けていることが特徴である。加えて、令和6年度の課題となっていた相談件数の算定方法について見直しを行ったことによる数字の減数となった。
- 西部コーナーは令和7年度、週3日制に変更した背景があり、相談数が減少したと分析する。一方で、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と協働で開始したプログラムなどの人気を博し、来館者数は令和6年度を超えているという特徴が見られた。
- 社会情勢の変化に伴い、相談内容が複雑化・複合的に変化しているため、法人内を含め、各関係機関とも連携した相談体制の構築が課題と言える。

2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

結果の概要

- 令和7年度はボランティアコーディネーターをそれぞれの拠点ごとに4エリアに編成した。各エリアの実態い合わせ、地域の希望やニーズに応じた方法での開催を行うことを試行した。
- ボランティア希望に応じ、説明会は随時開催していることから、各エリアのコーディネーターが協力して、市民を募るキャンペーンとして価値を再編した。

実績等

エリア	開催回数	参加者数
東エリア	2回	1人
西エリア	1回	0人
南エリア	2回	15人
北エリア		

分析・課題

- 南エリアでは「高齢者施設でボランティア活動したい方むけ」のボランティア説明会を実施した。ボランティア希望者以外にもボランティアの受け入れを考えている施設職員の参加もあり、活動を始める際の注意について説明をおこなった。
- 北エリアでの実施はしていないものの、野ヶ谷の郷では代表を中心に運営ボランティアを募集し、都度説明会を行っており、5人の新規運営ボランティアが活動を開始した。
- 集まりやすい場所や対象など、エリアごとの特徴を研究のうえ実施したい。

第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 ちょうふチャリティーウォーク

結果の概要

- 「寄附文化を醸成する」「企業、行政、教育機関、NPO、各種市民団体の協働の機会をつくる」「地域活動参加のきっかけとなる」を目的とした活動で、平成20年の発足時より開催に協力する。企画・運営は、実行委員会が担っている。

実績等

(1) ちょうふチャリティーウォーク 2025

開催日時	10月26日 10時～16時		
コース・会場	調布市役所前広場（スタート） → タコ公園 → 鬼太郎ひろば → 布多天神社 → KDX 調布ビル → 國領神社 → 常性寺 → 線路跡国領駅西 → 線路跡布田駅西 → 野村證券調布支店 → 調布市役所前広場（ゴール）		
参加者	392人	参加費	高校生以下 100円
スタッフ	71人		大人 500円
主 催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共 催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		
後 援	調布市 公益社団法人調布市スポーツ協会 調布市公立学校 PTA 連合会		
チャリティー金額	総額 245,416円（八丈島被災支援募金：57,286円）		
えんがわファンド 助成団体による 運営協力	元気はつらつ運動会実行委員会、スピードの会、調布 LGBT＆アライの会、調布まちの減災ナース染地、つぼみの会、手作り市、デジタルペイントハウス、電車っ子 Party、にゃんぶるワールド、マイペースカフェ、緑ヶ丘ノルディック・ウォーククラブ、（令和7年度助成うち12団体） 調布さくらウインドオーケストラ（過年度助成団体）		

分析・課題

- 調布市制施行70周年の記念イベントと同日の同時刻、同場所にて開催をした。雨天となったものの文化会館たづくり前における賑わいをもたらすことができた。
- 参加した方は、0～12歳、30～40歳代で全体の79%を占め、小学生までの子供とその保護者の参加が最も多くみられた。尚、市内在住者比率は79%であった。
- 同イベント内において、ちょうふチャリティーウォーク実行委員、センター運営委員を中心に、八丈島被災支援募金の街頭募金活動を行った。

2 調布市市民プラザあくろす内の連携

結果の概要

- 多様性社会男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会と連携し、あくろす全体での取組の調整や情報共有を行った。

実績等

- 「あくろす連絡会議」(月1回)に出席し、情報交換を行うとともに、必要に応じて情報交換を行った。
- 多様性男女共同参画推進センター主催の「しえいくはんず」での市民活動支援センター活動スペース、調布まち活フェスタでの市民プラザあくろす諸室の使用等あくろす内で相互協力を図りながらイベントを開催した。

分析・課題

- 日頃から情報共有や相談ができる関係性があり、円滑な連携ができている。

3 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

- 令和7年度は狛江市が幹事市として会議を企画・進行。情報共有・意見交換を中心に行われ、2月の会議時に5市のハザードマップを用いて水害時の被害や避難シミュレーションを行うワークショップを行った。

実績等

○ブロック北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実施回数	4回
参加者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定NPO法人難民を助ける会 [AAR JAPAN]
内容	情報共有・意見交換・水害時想定の上訓練(ワークショップ)

分析・課題

- 社協間での災害協定締結を踏まえ、発災した際のシミュレーションを行う等、より具体的な連携が求められる。

第6 人材育成、学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

結果の概要

- 小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」の研修等に対応した。

実績等

出前回数	16回	出前先	小学校	13回
受講生	延べ991人		中学校	1回

派遣スタッフ	延べ 69 人		高等学校 関係機関	0 回 2 回
開催講座数	48 講座 (内訳：手話 12、視覚障がい者ガイド 13、点字 9、車いす 14)			

分析・課題

〇令和7年度に入っても、コロナ禍の時の影響を受け、実施を検討する学校が少なかった。

出前講座を経験していない教員が増えてきているように感じるので、各小中学校を回り、出前講座のPR活動を実施していきたい。

2 調布サマーボランティア 2025

結果の概要

〇ボランティア体験プログラムを中心とした 32 の体験プログラムを実施した。

〇集会形式による、動画視聴とガイダンスを実施した。

〇ボランティア活動当日に職員が活動先を訪問し、フォローアップを行った。

〇体験者は、自身の活動の振り返りとしてアンケート（Google フォーム）の活動報告を提出。

〇受入団体へも同様に、アンケート（Google フォーム）を依頼。

〇体験者、受入団体のアンケートをまとめ、ホームページへ掲載した。

ボランティア体験プログラム実績等

申込み	期 間	6 月 30 日～7 月 12 日 8 時 45 分～17 時
	内 容	ボランティア体験プログラム
参加者人数及び活動別内訳	参加者総数	79 人（男性 15 人 女性 64 人）
	年齢層内訳	小学生 9 人 中学生 32 人 高校生 24 人 大学生(短大含む) 5 人 社会人 9 人
協力団体・施設	団体 (寄付受付を含む)	内 訳
		高齢者関係 7 団体
		障がい者関係 4 団体
		子ども関係 8 団体
		環境関係 5 団体
		その他 8 団体
期間	体験期間	8 月 1 日～8 月 31 日

分析・課題

〇少数ではあるが、プログラム終了後に、活動先団体でボランティア活動を継続した方がいた。

〇プログラム後に行った体験者アンケートでは、活動を大変楽しめたと回答した方が 88%、ボランティア活動の前後で、新しい気づきや変化があった（新たなことを知ることができた、見方が変わった）

と回答した方は 80.0%であった。

○受入団体向けのアンケートについて、プログラムの全体の満足度は満足 66%、やや満足は 24%だった。また若い方の参加により、場に活気が生まれた、つながりがうまれたなどのコメントがあった。

第7 職員の派遣・研修 他

1 他団体等への職員派遣

結果の概要

- 関係機関の会議へ積極的に参加し、情報収集と関係づくりに努めた。
 - ・東京ボランティア・市民活動センター センター長会議（事例発表）
 - ・調布市市民参加推進研修（市民活動支援センター活動紹介）
 - ・ちょうふ災害福祉ネットワーク運営委員会
- 近隣大学や関係機関からの依頼を受け、大学の授業にてボランティア講座を担当した。
 - ・慈恵医科大学看護学科「ボランティア論」
 - ・白百合女子大学「ボランティア講座」（2回）
 - ・調布市立図書館「ボランティア説明会」
 - ・中間支援組織スタッフのためのサードプレイスピザパー2026

2 職員研修

結果の概要

- 中間支援組織の役割やボランティアコーディネーションに必要なスキルを学ぶため、認定 NP0 法人 日本ボランティアコーディネーター協会の講師派遣制度を活用し、ボランティア・市民活動推進課職員と市民活動支援センター運営委員合同による研修会を開催した。
- 東京ボランティア・市民活動センター新任職員研修、日本 NP0 センター初任者研修、NP0 運営講座、苦情解決担当者研修、育成面談研修等職層やテーマに応じた内容の研修に参加し、スキルアップに努めた。
- 個人情報保護に関する研修（動画視聴）、虐待防止チェックリストを活用した支援の振り返り、コーディネーター会議での事例検討等課内での学びの機会を設けた。

実績等

研修名	調布市市民活動支援センター運営スタッフ研修
実施日	令和7年9月4日 9時30分～11時
場 所	市民プラザあくろす3階あくろすホール
講 師	唐木理恵子氏（日本ボランティアコーディネーター運営委員）
参 加 者	ボランティア・市民活動推進課職員12人・市民活動支援センター運営委員5人
内 容	・ボランティアコーディネーターの必要性 ・ボランティアコーディネーターの8つの役割 ・中間支援組織の役割 ・社協ボランティアセンターの特性

3 視察対応

結果の概要

- 調布市からの施設見学対応依頼や市内中学生の職場体験受入に協力した。
- みんとしよ図書館ネットワークの施設見学を受け入れた。
「全国みんとしよサミット 2026」参加者のえんがわ文庫見学（協力：えんがわ文庫棚主）
- 他自治体・他社協からの視察依頼（複数回）に協力した。
- 東京ボランティア・市民活動センター「区市町村ボランティア・市民活動センター新任職員研修」及びユースボランティアプロジェクト現場訪問受入

第8 調査・研究

結果の概要

- 市民活動支援センターホームページ情報登録団体を対象に、アンケート調査を実施した（令和7年8月20日～11月11日 65件回答）。
- 市民活動支援センター利用者を対象に、アンケート調査を実施した（期間：令和8年2月1日～2月28日 293件回答）。
- 市民活動団体対象のアンケート調査では、コロナの影響で活動を休止、終了する団体が多数あったが、現在はコロナ前と変わらずに活動する団体が6割、活動を縮小しながら続ける団体が2割、コロナ前より活発に活動する団体が1割と回答している。また、55%の団体が「ボランティアが必要」と回答している。自由記述の回答では、メンバーの高齢化、担い手不足を挙げる団体が多く見られる。
- 市民活動支援センター利用者アンケート調査では、回答者の年代について20代以下が3割、70代以上が4割を超えている。令和8年3月の調布市の年齢別人口統計では、20代以下28%、70代以上17%となっている。また、センターの利用歴について、5年未満が5割、5～9年が2割、10年以上が3割の回答となっている。センターを知るきっかけは家族や知人からの紹介が6割、あくろす内施設利用が3割の回答となっている。

分析・課題

- 市民活動支援センターが今後力を入れるべき機能に関する問いに対して、半数以上の団体が「情報収集・提供・紹介・調整」といったコーディネーション機能に力を入れてほしいと回答している。当センターのコーディネーション力の向上に向けた取組を進めていく必要がある。
- 市民活動支援センター利用者の年齢構成とアンケート回答者の年齢構成は必ずしも一致するとは限らないが、中高生世代を始めとした学習目的で利用する個人利用の増加傾向が見られている。また、70代以上の利用については、趣味活動等でのグループの利用が多いことや市民活動団体のアンケート調査でのメンバーの高齢化との関連性が考えられる。
- 今回の利用者アンケート調査では、利用者の関心事に関する質問を設定した。分野としては、福祉が最も関心が高く（22%）、次いで医療・環境・教育・災害・国際交流の順に関心ありの回答が10%台であった。回答者の9割は何らかの分野に関心を持っている。また、利用者の趣味等に関する質問ではスポーツが14%と最も高く、次いで旅行、読書、美術、健康の順となっている。趣味や好きなこ

とを活かしたボランティア活動に対して約半数の回答者が関心ありと回答していることから、市民の関心のある分野や社会課題に焦点を当てた取組や趣味の社会化を意識したプログラムづくり等今後のセンター事業に反映させていきたい。

第9 災害対策・支援（重点項目）

1 調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

結果の概要

- 調布市地域防災計画「円滑なボランティア活動の推進」に規定されている「災害ボランティアコーディネーターの計画的な養成」の取組として、調布市総合防災安全課や資源循環推進課との連携により災害ボランティアコーディネーター養成講座（風水害編・地域防災計画編）を開催した。
- 大規模災害が全国で頻発し、迅速なボランティア活動の展開が求められる中、地域の災害対応力を高めるため、調布 Facebook 交流会との協働により、ICT を活用した災害ボランティアセンター運営訓練を行った。
- 災害時に特に配慮や支援を必要とする方々への理解を深めるための講座として、「被災地での聴覚障がい者の孤立を防ぐために～能登半島地震聴覚障がい者支援ボランティアのお話～」を開催し、能登半島地震での教訓から災害時の聴覚障がい者支援や日頃からの備えについて学ぶ機会をつくった。

実績等

研修名	調布市災害ボランティアコーディネーター養成講座～風水害編～
実施日	令和7年10月15日 19時～21時
場 所	市民プラザあくろす3階研修室3
講 師	宮崎賢哉氏（災害支援・防災教育コーディネーター・社会福祉士）
参 加 者	20人
内 容	・災害ボランティアセンターについて ・災害ボランティアセンター運営スタッフについて ・災害ボランティアセンター体験

研修名	調布市災害ボランティアコーディネーター養成講座～地域防災計画編～
実施日	令和7年10月28日 10時～11時30分
場 所	市民プラザあくろす2階市民活動支援センター
講 師	調布市総合防災安全課、調布市資源循環推進課、朝日敏幸氏
参 加 者	21人
内 容	・総合防災安全課による出前講座 ・資源循環推進課による災害時のごみの出し方、調布ごみナビ説明 ・災害ボランティアセンター運営経験者の経験談

研修名	災害ボランティアセンターICT活用訓練～災害時のICT活用によるボランティア活動の新たな可能性～
-----	--

実施日	令和7年10月19日 13時30分～15時
場 所	市民プラザあくろす3階あくろすホール
講 師	柴田哲史氏（サイボウズ株式会社・調布 Facebook 交流会）
共 催	調布市・調布 Facebook 交流会・社会福祉法人調布市社会福祉協議会
後 援	サイボウズ株式会社
参 加 者	35 人
内 容	・災害ボランティアセンター運営支援システムによる5つの改善 ・災害時の kintone 活用最前線&システム入力体験 ・能登半島地震からの学び（災害関連死を防ぐ取組）

研修名	災害時要配慮者の理解を深めるための講座「被災地での聴覚障がい者の孤立を防ぐために～能登半島地震聴覚障がい者支援ボランティアのお話～
実施日	令和8年1月31日 14時～15時
場 所	市民プラザあくろす3階あくろすホール
講 師	池田大輔氏（能登半島地震聴覚障がい者支援ボランティア・出前講座当事者スタッフ）
参 加 者	44 人
内 容	・令和6年能登半島地震・奥能登豪雨について ・能登半島地震聴覚障がい者支援ボランティアの話

分析・課題

- 災害ボランティアコーディネーター養成講座での学びが災害時に活かせるよう、災害ボランティアセンター設置運営訓練を定期的実施し、改善を重ねていくことが必要である。
- 災害ボランティアセンターの設置・運営については、過去の経験を活かし、水害、地震等の自然災害発生を想定し、より具体的な準備ができるよう、行政をはじめ関係各所と協議を進める必要がある。
- 令和7年7月改正の災害対策基本法等の一部改正においても、高齢者、障がい者、乳幼児、外国籍の方等様々な災害時要配慮者への福祉的支援等の充実が掲げられている。令和7年度は聴覚障がい者支援に焦点を当てた講座を開催したが、他の要配慮者に関するテーマの企画も行いたい。また、要配慮者と共に時を過ごしたり、交流する機会をつくる等、その理解を深めるための創意工夫が必要である。

2 調布市災害ボランティアセンター

（旧調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

結果の概要

- 調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在も当センターの災害ボランティアコーディネーター養成講座や災害ボラセン ICT 活用訓練等災害ボランティア関連の情報を WEB サイトや SNS（Facebook）で発信している。
- 令和7年度から調布市災害ボランティアセンターWEB サイトにて災害ボランティア登録を開始した。現在 29 人が登録している。
- 当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間1回のセキュリティーチェックを

実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

分析・課題

- 災害時にすぐに運用が開始できるように、サイトの維持管理を行っている。
- 昨今の災害ボラセン運営において、災害ボランティアセンター用アプリの活用が標準的になっており、同アプリの有効活用が不可欠となっている。調布市災害ボランティアセンターWEB サイトもこのアプリケーションと連携しており、センタースタッフが平時から同アプリを使う機会を持つことで災害時に円滑に使用できるよう備える必要がある。

3 令和7年台風22号・23号八丈島支援都内一斉街頭募金活動

結果の概要

- 東京ボランティア・市民活動センター及び災害協働サポート東京の呼びかけにより、令和7年台風22号・23号八丈島被災者支援のための都内一斉街頭募金活動を実施した。

実績等

活動名	令和7年台風22号・23号八丈島被災者支援のための都内一斉街頭募金活動
実施日	① 令和7年10月19日 11時～12時 ② 令和7年10月26日 14時～15時
場 所	① 国領駅前広場・市民プラザあくろす ② 調布市役所前広場・調布市総合福祉センター前
参 加 者	① 17人（調布Facebook交流会スタッフ、市民活動支援センター運営委員、調布社協実習生、調布社協職員） ② 15人（災害ボランティアコーディネーター養成講座受講者、市民活動支援センター運営委員、ちょうふチャリティーウォーク実行委員、えんがわファンド助成団体、調布社協職員）
募金額	合計 93,211円（① 35,925円 ② 57,286円） 八丈島ささえあいセンター「あすなろ」に支援金として寄付

分析・課題

- 発災後間もない時期だったこともあり、多くの市民の皆さんが募金してくださった。募金の際に、「故郷が八丈島なので」「知り合いが八丈島にいて」とお声かけくださった市民の方々もいた。現地に行くことは難しいが市民の「何か役に立ちたい」との思いをつなげる、被災の状況や支援の必要性を市民に伝えるきっかけをつくることができた。
- 急な呼びかけにもかかわらず、30人を超えるボランティアが募金活動に参加した。2回の募金活動は、調布まち活フェスタ、ちょうふチャリティーウォーク両実行委員会メンバーやイベント関係者のご協力により実施することができた。また、10月に開催した災害ボランティアコーディネーター養成講座受講者へ参加の呼びかけ、一緒に募金活動を行うことができた。平時からの様々な団体・機関とつながりや連携の機会を大切に活動していきたい。